

2013年度に140億円を超える日本のロボット市場

成長が期待されるのは、家庭用・福祉介護用ロボット

2005年に開催された「愛・地球博」やテレビコマーシャルで注目を集めた日本のロボット技術。製造業の工場などで利用されているものを除いた、私たちの暮らしに身近なロボットの市場は、2013年度には140億円を超える規模にまで成長する見通しです。

ロボットは利用環境によって、オフィス用、家庭用、福祉介護用の三つに大きく分けられます。今後は、家庭用と福祉介護用のロボット市場が、大きく伸びていくと予想されます。

家庭用ロボットの開発では、機能を絞ることで安全性を確保し、コストダウンを図る傾向が見られます。例えば、米国のiRobotが開発・販売を手がける自律移動型掃除ロボット「ルンバ」は、単機能と低価格によって、世界中で高い利用実績を挙げています。

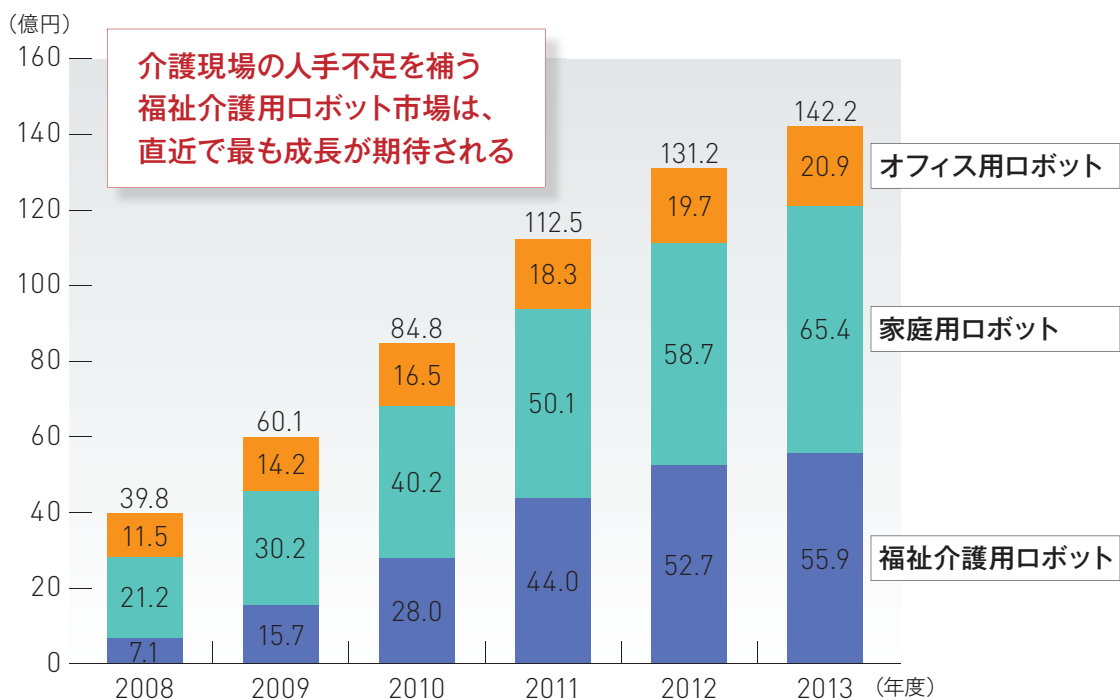
福祉介護用ロボットは、少子高齢化時代の

人手不足を補う切り札として、活躍が期待されています。リハビリ支援や動作サポートの役割を果たすロボットは、人間が操作して動かすため、技術的な制約が少なく開発しやすいというメリットがあります。購入時に公的な補助金を受けられる可能性も高く、今後利用者はますます増加していくでしょう。

私たちの暮らしに身近なロボット

利用環境	主な用途
オフィス	多目的ロボット セキュリティーロボット 清掃ロボット 搬送用ロボット
家庭	セキュリティーロボット 清掃ロボット
福祉介護	実用系コミュニケーションロボット リハビリ支援ロボット サポートロボット パワーアシストスーツ

2013年度に向けて拡大するロボット市場



* グラフは、オフィス、家庭、福祉介護用などの非製造業用ロボットの市場規模予測であり、従来型の製造業用ロボットや軍事用ロボット、玩具用途のエンターテインメント系ロボットは対象としていない。
* 四捨五入などの数値処理により、合計数字が合わない箇所があります。